

第4回農経シンポのご案内

農経シンポは、おおよそ道東地域を研究のベースとする農学・農業経済研究者、実務者および学生・院生の研究組織・親睦組織です。

平成21年度 第4回研究会を以下のように開催いたします。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にどうぞ。

今回は帯広畜産大学 仙北谷康先生、明治飼糧 畠山尚史さんをお願い致します。今回も引き続き北大、酪農学園大とテレビ会議を使って三大学を結んで行います。

開催日：7月30日（木）

開催時間：13：30～

会場：帯広畜産大学総合研究棟 I号館2階 E2503

—第1報告—

報告者：畠山 尚史（明治飼糧株式会社）

報告テーマ：酪農の担い手問題と経営継承スタイルの多様性

報告要旨：近年の酪農全国基礎調査から、後継者が決まっている経営は25%に過ぎない。都道府県の離農率が高まっているが、後継者が確保できない事が主要因である。北海道においても同様の傾向が見られつつある。農業における経営継承を考えた場合、“担い手”と称されるように、経営を継ぐ者の解釈が広義になっている。これは従来の家族経営型の継承パターンから法人継承、農業者の農業関連会社の設立、農外資本の参入などの動向から継承パターンが多様化しつつある。今回の報告では、酪農の経営継承問題を切り口に、今後想定される経営継承のスタイルについて考察する事を目的とする。

—第2報告—

報告者：仙北谷 康（帯広畜産大学）

報告テーマ：市場経済システム導入後の旧社会主義国の青果物流通

報告要旨：本報告では、主としてチェコ共和国とポーランドにおける青果物流通構造の比較分析を通して、青果物流通構造とそれを規定する要因の関連を実証することである。ほぼ同時期に市場経済システムを導入したこれらの国々も、現在の青果物流通システムは大きく異なる。これは計画経済システム化における土地所有や食糧管理の仕組み、また工業化・都市化の程度など社会経済構造は一様ではなかったのであり、体制変換後もその影響を強く受けているからである。